

企業ニュース 東京エレクトロン

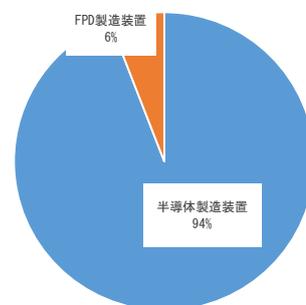
(東証1部 : 8035) <https://www.tel.co.jp>

作成者: 兵藤三郎

国内大手半導体製造装置メーカー

1963年、東京放送（現TBSホールディングス）の出資により、東京エレクトロン研究所として設立、1978年に現在の商号に変更した。半導体製造装置の輸入商社からスタートし、徐々に製造部門を強化してきた。コータ/デベロッパ（塗布・現像装置）、エッチング装置、成膜装置、洗浄装置などで高いシェアを持ち、世界の主な半導体メーカーにさまざまな装置を供給するメーカーとなっている。その他、フラットパネルディスプレイ製造装置も展開している。IoT、AI、5Gなどの情報通信技術用途の広がりに伴う半導体需要の高まりが業績をけん引している。スリットエッチングや超臨界乾燥・洗浄装置など、新たなPOR（顧客の製造工程における装置採用の認定）獲得も進捗、新規装置の拡販につながっている。納入済み装置は78,000台に上り、改造案件などのフィールドソリューションも収益貢献している。

◇21.3期売上高構成比



(出所) 東京エレクトロン資料よりCAM作成

注力製品の伸長が業績をけん引

22.3期・第2四半期累計（4-9月）の連結業績は、売上高が9,325億円、前年同期比40%増、営業利益が2,746億円、同86%増。主力事業の半導体製造装置の販売が拡大し、大幅増収増益となった。注力製品の売上が量産ラインでの採用などで計画通り拡大した。半導体製造装置における顧客要求の前倒しや受注の増加により、8月16日に公表した会社計画を、売上高で325億円、営業利益で296億円上振れて着地した。第1四半期（4-6月）は顧客・アプリケーションミックスが共に良好で高い利益率となった。第2四半期は（7-9月）はその反動もあり利益率低下を織り込んでいたが、実績はさほどミックスが悪化せず、高い利益率が維持された。

22.3期の会社計画は、売上高1兆9,000億円、前期比36%増、営業利益が5,510億円、同72%増。第2四半期決算発表時に、顧客の設備投資動向と業績動向に鑑み、8月16日に公表した業績予想を売上高で500億円、営業利益で430億円上方修正した。会社側からは新たなPOR獲得の報告や、下期の粗利率が第2四半期（7-9月）より上昇する見通しが示された。

【株価動向・投資判断】

注力製品の販売伸長に伴う利益率向上を評価したい。シリコンサイクルや部材不足の影響などの懸念要因はあるが、中期的な半導体需要拡大が業績をけん引しよう。

<8035 東エレクトロニクス 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
20.3	1,127,286 (▲ 12)	237,292 (▲ 24)	244,979 (▲ 24)	185,206 (▲ 25)	1,170.6	588.00
21.3	1,399,102 (▲ 24)	320,685 (▲ 35)	322,103 (▲ 31)	242,941 (▲ 31)	1,562.2	781.00
22.3 予	1,900,000 (▲ 36)	551,000 (▲ 72)	551,000 (▲ 71)	400,000 (▲ 65)	2,569.9	1284.00

(注) 「収益認識に関する会計基準」等を22.3期・第1四半期より適用。22.3期の予想は適用後の数値だが、伸び率は適用前の21.3期の業績を基に算出



[主要株価指標] (売買単位 : 100株)	
株価 (2021/12/17)	61,270 円
年初来高値 (高値日)	64,100 円 (21/11/19)
同 安値 (安値日)	37,520 円 (21/1/4)
予想 P E R (22.3 予)	23.8 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	7,535.8 円
P B R	8.13 倍
予想配当利回り	2.10 %
(1株当たり配当金年1284.00円)	
R O E (21.3)	26.5 %
発行済み株式数	15,721 万株